

特集 わたしたちの住む町の駅 みの駅



とも 共 結 新 聞

2013.9.23
発行 者
筒井 睦敬
唯那

歴史

1913.12.20	予讃線が開通 (この時、三野町内に駅はなかった。)
1940ごろ 1950.	みの駅開業運動が始まる 大坊市の時だけ列車が止まる (大坊市とは、大坊さんと呼ばれているお寺で、毎年11月に行われる市。)
1952.1.27	高瀬大坊駅として開業
1971.11.8	簡易委託駅になる
1974.12.3	みの駅に改称 (記念式典も行れる。)
2008.6.1	無人化される

北緯 34度12分22.23秒
東経 133度42分37.15秒

場所

か大

香川県

JR
高松琴平電気鉄道

私達の住む三豊市三野町には、電車の駅が二駅あります。一つは「みの駅」。もう一つは「津島ノ宮駅」。しかし、津島ノ宮駅は一年の内、二日しか営業されません。(津島の宮の大祭のある八月四、五日のみ)そこで、ふ段利用する「みの駅」の事をよく知りたいと思ひ、調べる事にしました。

これがみの駅

なぜ駅名が変わったの?

元の駅名「高瀬大坊」は、
高瀬 → 駅のある場所が、下高瀬地区(昔の下高瀬村)。
大坊 → 駅の近くにある市で有名な本門寺(大坊と呼ばれている)がある。
ところから名付けられていました。しかし、三野町のとなり町、高瀬町の駅だと思われる事が多かったのです。
だから、間違われない様に、三野町にある駅「みの駅」に改名されました。
日本で4番目の ひらがなだけの駅名です。

線路側から見た駅

1面1線の小さな駅です。駅舎の赤茶色の屋根がかわいいです。



ホームのはしから
1本の線路を平行に、プラットフォームが約70m続いています。

みの駅の名物?

駅舎の中から「いってらっしゃい」ホーム側から「おかえりなさい」がお出向かえ。



正面から見たみの駅の駅舎

この駅舎は、1952年の開業当時の木造平屋建てのものです。とても小さい上、入口近くに木がしげっているため、駅舎があるのが、分かりにくいのかも。

感想

小さな駅に、たくさんの人の想いがこもっている事に感動しました。また、みの駅の名前の由来について、なるほどと思いました。もっとみの駅について知りたいです。

参考にした本
週刊JR全駅、全車両基地 58
三野町文化史 2 三野町の民俗
朝日新聞出版
三野町

みの駅前の困った事

もう一度、上の写真を見てくださいます。駅舎の前に、自転車がたくさん置かれています。下の写真も見て下さい。道路まで置かれています。どうしてこの様な事が起こっているのでしょうか。

理由一 ちゅう輪場の場所
昔はちゅう輪場もなく、路上ちゅう輪は、もっとひどかった様です。なので、三野町がちゅう輪場を作り直した。が、作られたのは、駅からふみ切りをはさんだ向こう側。電車の発車時刻ギリギリに駅に着くと、ふみ切りにはばまれて、自転車を置きに行けなくなってしまいました。だから、駅前にちゅう輪するのです。

理由二 自転車の乗り捨て
駅前に置かれた自転車には、乗り捨てられた物もあります。これは、引き取り手がいないので、三豊市が、去るまでずと置かれ続けてしまいます。

みんなが利用する駅です。気持ち良く利用出来る様に、ルールを守り、大切にしましょう。

